

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：80101  
 研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2012～2014  
 課題番号：24700938  
 研究課題名(和文) 限界集落再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究  
  
 研究課題名(英文) A Study on Knowledge Management of Regional Resources with Museums As a Core Focus for Achieving Regional Regeneration  
  
 研究代表者  
 青柳 かつら (Aoyagi, Katsura)  
  
 北海道開拓記念館・学芸部・学芸員  
  
 研究者番号：30414238  
  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：博物館を核とした地域資源管理システムの手法を明らかにすることを目的に、A町郷土資料室と連携して、地域資源を題材とする学習事業とその評価を行った。  
 その結果、農林業にまつわる技術や知識を記録した短編映像や聞き取り記録集、そして地域資源マップ、活動プログラム集を製作できた。製作を通じて、A室の情報整備が進み、高齢者の社会参加の場としての役割が発揮された。学習評価では、中学生の地域資源への関心、指導ボランティアの自主性向上等の効果が見られた。その一方で、学習の継続性の担保、そして指導者の高齢化を受けて、高齢者向け学習プログラムの開発等の課題が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In order to clarify the method of knowledge management of regional resources with regional museums, learning projects using regional resources through citizen participation and evaluation of these projects effectiveness have been done in collaboration with Regional Museum A.  
 As a result, we produced short films and a report on interviews in which are recorded farming and forestry vocational skills and knowledge, a town A regional resource map, and a report on regional learning programs. Producing them led Regional Museum A to an accumulation of knowledge and also promoted the role of participation by aged people in the region. As for evaluation, junior high school students' awareness of regional resources and volunteer teachers' autonomy have increased. On the other hand, we found future challenges including the security of continuing regional learning, and the development of new programs for aging volunteer teachers.

研究分野：環境教育 森林利用史

 キーワード：博物館 住民参加 映像 生活史の聞き取り アンケート調査 地域資源マップ 地域学習プログラム  
 高齢者の社会貢献

## 1. 研究開始当初の背景

急速に進む過疎・高齢化により日本の中山間地域では、住民の社会生活の維持や地域資源の管理が危機に瀕している。北海道では住民の半数以上が55歳以上の準限界集落が2,369集落(集落全体の36%,2008年)を占めるなど問題が深刻化している。解決策の1つとして、地域の人材と地域独自の知識を積極的に活用して、住民がそこに暮らす誇りを生み出す地域資源管理システムが必要である。

研究代表者は、2009年から博物館ボランティア活動に着眼し、住民協働によって博物館が山間地域の活性化に主体的役割を發揮する方策を明らかにする研究に着手してきた。これらの研究から、1) 圏域内の多様なセクターの協力、2) 活動拠点となる場、3) 活動の継続性を担保する指導者育成の重要性を実地において強く認識することとなった。

しかしながら、現場では、相乗効果を生み出すセクター間の連携の具体像や地域資源管理の担い手の育成方策等の知見が不足している。そこで本研究では、中山間地域をめぐる課題解決を志向する上記の研究を「博物館を核とする地域再生」地域資源管理」という広い視野のもとで発展させ、システムの構築について検討することとした。

## 2. 研究の目的

本研究では、北海道の山間地域に位置する、A町郷土資料室(以下、A室)をモデルとして、以下を明らかにすることを目的とした。

### 1) 地域資源の抽出とマップ化

地域資源のリスト化・マップ化を行い、汎用可能な手法を明らかにする。

### 2) 地域ナレッジの形式知化

農林業経験者等への聞き取りによって地域ナレッジの変容を明らかにする。

博物館資料と地域ナレッジを関連付け、A室所蔵資料の情報整備を行う。

### 3) 地域ナレッジを活用した博物館による地域活性化事業の展開

地域活性化事業を展開し、地域ナレッジの活用手法を検討する。

事業の実施主体・客体の意識把握から評価指標を抽出して、事業の効果測定を行う。

### 4) 支援ナレッジの形式知化

先進事例を調査して、中山間地域における地域資源管理の支援手法等を明らかにする。

A室における支援ナレッジを知識移転可能な形式知としてプログラム化する。

## 3. 研究の方法

### 1) 地域資源の抽出とマップ化

文献調査によって、各資源の歴史的経緯等を把握。

A室ボランティア(以下ボランティア)を対象にワークショップを行い、地域資源(地域固有の自然、文化、人材等)を収集してリスト化する。

### 2) 地域ナレッジの形式知化

農林業と結びついた地域ナレッジ変容の把握:町内高齢者、現役の農家・林業労働者を対象に、生業暦や自然利用に伴う知識について聞き取り調査を行う。

博物館資料と地域ナレッジの関連付け:A室所蔵資料と上記で収集した地域ナレッジを関連づけ、情報整備する。情報の失われがちな農林業・生活用具等の使用法は再現映像を記録する。

### 3) 地域ナレッジを活用した博物館による地域活性化事業の展開

他セクターおよび他地域との連携事業の展開

a 資料室が行う教育事業、生涯学習事業に対して、地域ナレッジを活用したプログラム支援を行う。

b 地域再生の主体として、ボランティアを人材育成し、近隣地域内の組織との連携や情報発信を支援する。

事業の効果測定

a スタッフアンケート:指導者であるボランティアスタッフを対象に地域資源学習プログラム評価を行う。

b 学習活動参加者アンケート:中学生・生涯学習参加者を対象にプログラムの満足度を把握する。教員を対象に、学習後の生徒の態度変容について聞き取り調査を行う。

### 4) 支援ナレッジの形式知化

先進事例調査として、中山間地域における地域資源活用事例を調査する  
支援プログラムの記録(A町)

## 4. 研究成果

### 1) 地域資源の抽出とマップ化

A室ボランティア内にマップ製作チームを結成し、会議と関連行事13回を経て2013年7月、地域資源マップが完成した(写真1)。

マップ4,000部を町内外に配布した結果、マップ製作を担ったボランティアへの注目が集まり、新聞報道等で、地域資源を活用した活動実績を情報発信する機会を得た。マップは、流域内の地域づくり関係者からの評価を獲得し、A室の来室者を増やす効果もあった。A町公民館らの発案により、マップの普及のため、研究代表者を講師に、住民対象の講演会を実施することもできた。



写真1 マップ製作会議（女性チーム）

## 2) 地域ナレッジの形式知化

地域ナレッジ変容の把握のため、農家・林業労働者へ聞き取りをした結果、1954年の風倒木被害を契機とする林業の機械化の進展、1955年頃以降の農業機械化、農薬の普及といった、新技術導入への農・林業者の知恵や戦略を明らかにできた。

高齢者を中心とする町民延べ230人の協力のもと森林利用技術等を再現した22本の短編映像を作成したり（写真2）、1955年頃の稲作写真、鋸やチェーンソー、馬櫓等の道具と地域ナレッジの関連付けをした結果、A室の情報整備が進んだほか、高齢者の社会参加の場としてA室の役割が発揮された。



写真2 馬櫓に木材を載せる実演・撮影

## 3) 地域ナレッジを活用した博物館による地域活性化事業の展開

A室、ボランティア、A町教育委員会・公民館と連携して、山野草・化石などの自然資源、わら細工などの文化資源を題材とする中学生対象の教育事業（年5回）、一般対象の生涯学習事業（年2回）を実施した。

こうした活動や地域資源マップ製作経過は、新聞報道等を通じて道内・近隣町村にPRしたり、「第16回道北の地域振興を考える講演会（2013年3月）」にて情報発信した。同講演会に参加したA室職員やボランティア会員は、流域内の地域づくり関係者と意見交流を行うことができた。

教育事業では、中学生の学習直後と終了後（約5ヶ月後）の学習効果を比較したところ、地域資源への関心等は学習効果が高く、終了後も高いまま定着した。しかし、知識や学習能力等は低く、終了後も低いまま定着したり、有意に低下したことが明らかになった。教育活動の継続と内容深化という課題に対応するため、指導者の自主性が向上し、2014年度には、従来の町民向け講演会を刷新して、中学生の地域の自然や歴史への知識獲得を補う、少人数、対話型の講座を開催できた。

さらに、1)に関連して、2014年度には、地域資源マップを活用したA室行事、公民館講座を開催し、掲載資源の魅力や課題を実地に確認・共有できた。

今後は、学習参加者や指導者の高齢化に対応して、町内外の諸組織と連携して担い手の年齢層を幅広くしていくこと、「回想法」、「ウェルビーイング」をキーワードに、高齢者向け地域学習プログラムを開発することが課題である。

## 4) 支援ナレッジの形式知化

先進事例調査として、岩手県宮古市の学芸員（事例1）、北海道下川町のNPO法人職員（事例2）、福井県勝山市の市民団体職員（事例3）を対象に、地域資源を活かした地域づくり活動の運営手法の聞き取りを行った。その結果、地域住民との連携により、地域資源を活かした「体験型展示」を運営の主眼に据えた博物館活動（事例1）、そして森林資源を教育やセラピーの題材としてソフト開発を行い、多様かつ継続的に活用する地域づくり（事例2）、自治体と市民団体の官民連携による継続的な地域資源の掘り起こしと活用（事例3）について知見を得ることができた。

モデル館A室の活動運営に伴う支援ナレッジを、地域学習プログラムと支援ノウハウ集の形式で記録した。

## 5) 研究成果の公開・普及

1)は、既述のように地域資源マップ、2)は、聞き取り記録集、3)～4)は、地域学習プログラム集として図書とCDを発行し、道内外博物館約200箇所に配布した。

各項目の研究成果は、日本森林学会や道北の地域振興を考える講演会で研究発表を行ったほか、札幌FM局でのラジオ講演、道庁所在地の札幌市、道内中核都市である士別市、そして道内山間地域である足寄町での市民講座、北海道開拓記念館の研究報告書等にて成果の公表を行った。

抽出した地域ナレッジは、A室での地

元での普及のほか、2015年4月オープンの北海道博物館 総合展示「第3テーマ 北海道らしさの秘密」中テーマ「1 資源とともに」および、第1回企画テーマ展「学芸員おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ」にて一部を公開した。これら展示により、年間数万人規模の道内外からの観覧者に普及が図られる見込みである。

今後は、上記の知見を踏まえつつ、今回得られた、地域博物館を核とした地域資源ナレッジマネジメント手法を、後継の研究にて他地域へも応用し、比較検証することが課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

- 01 青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(3): 地域学習活動の効果」『第126回日本森林学会大会学術講演集』査読無. 168-168頁. 2015.
- 02 青柳かつら「住民協働による森林利用技術の映像記録と活用」『北方地域の人と環境の関係史 研究報告』北海道開拓記念館. 査読無. 173-176頁. 2015.
- 03 青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(2): 住民参加による地域資源マップ製作」『第125回日本森林学会大会学術講演集』査読無. 175-175頁. 2014.
- 04 青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究: 住民参加による地域資源マップ製作」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号. 査読無. 1-22頁. 2014.
- 05 青柳かつら「地域のお宝を活用して天塩川流域の暮らしを元気に! : 土別市朝日町郷土資料室を核とした山村文化保存・教育普及活動の事例」道北の地域振興を考える研究会. 『北海道北部の地域振興』第14号. 査読無. 28-50頁. 2014.
- 06 青柳かつら「伝えたい 山村地域の魅力: 『土別市朝日町 知恵の蔵おすすめマップ』を製作して」北海道森と緑の会. 『山づくり』平成24年度版. 査読無. 11-11頁. 2013.
- 07 青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究: アンケートによる中学校総合学習の効果測定」『第124回日本森林学会大会学術講演集』. 査読無. 82-82頁. 2013.

[学会発表](計4件)

- 01 青柳かつら「地域再生をめざした博物館

を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(3): 地域学習活動の効果」2015.3.28. 北海道大学.

- 02 青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(2): 住民参加による地域資源マップ製作」2014.3.29. 大宮ソニックシティ.
- 03 青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究: アンケートによる中学校総合学習の効果測定」2013.3.26. 岩手大学.
- 04 青柳かつら「地域のお宝を活用して天塩川流域の暮らしを元気に! : 土別市朝日町郷土資料室を核とした山村文化保存・教育普及活動の事例」道北の地域振興を考える研究会. 招待講演. 2014.3.15. 名寄市立大学.

[図書](計3件)

- 01 青柳かつら『土別市朝日町の農林業の歴史と文化 - 聞き取り調査の記録 - 』北海道開拓記念館. 査読無. 357頁. 2015.
- 02 青柳かつら・朝日町郷土資料室・知恵の蔵運営委員会『土別市朝日町 知恵の蔵探してみよう! 地域のお宝 活動プログラム集』北海道開拓記念館. 査読無. 21頁. 2015.
- 03 知恵の蔵運営委員会・朝日町郷土資料室・青柳かつら『土別市朝日町 知恵の蔵おすすめマップ』北海道開拓記念館. 査読無. 表裏2頁. 2013.

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

(研究成果の公開)『土別市朝日町 知恵の蔵おすすめマップ(電子版)』ほか

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100004436597374>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

青柳 かつら (Katsura AOYAGI)

北海道開拓記念館 学芸員

研究者番号 : 30414238

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし